

セマンティックウェブの次のステップ：オープンデータと知的処理

大向 一輝

国立情報学研究所

i2k@nii.ac.jp

概要 セマンティックウェブ技術に基づいて多様な情報源のデータ連携を実現する Linked Open Data (LOD) は、標準化や RDF ストアの開発が進んだことで実用段階に入った。すでに学術情報や政府・地方自治体などの公共情報の提供手段として用いられており、さらなる普及が期待できる。LOD では情報に対するグローバルな識別子として HTTP URI が必須となるが、維持管理や異なる情報源における同一性の判別が大きな課題である。本講演では LOD の概要や実サービスでの利用・提供経験から得られた知見について述べるとともに、識別子をワークフロー、機械処理ならびにユーザ参加の 3 種のアプローチによって管理する手法の提案を行う。

キーワード Linked Open Data, 学術情報流通, オープンガバメント, 識別子, 名寄せ